

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	『つねに自由で一人ひとりのペースに合った家庭的雰囲気の中、その人の願いを取り入れ、支え合い、認め合い、家族も共に地域の中で安心の出来る生活を提供します。』という理念を作り上げている。		
2 理念の共有と日々の取組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	スタッフそれぞれが理念を理解した上で日々勤務が遂行出来る様、職員教育の場や日常的に目にする場所に掲載している。		
3 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	ご家族、他来客者にも来所時にわかりやすいよう、ホールや詰所前の見やすい場所に掲載している。		
2. 地域との支えあい			
4 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	入居者の散歩時や、回覧板を持っていく時、他近所の方と触れ合う機会に応じて、ご挨拶をしたり、また施設行事には広報を回覧板に入れさせてもらい、告知している。		
5 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	町内会行事には積極的に参加するように心がけている。(町内ごみ拾い、花壇設営、町内行事等)		
6 事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	地域の方と接する機会を持ち、その中で皆さんに役立つことや、地域においてのグループホームのあり方、役割を家族や職員と意見交換し、話し合っています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己・外部評価において意義の理解をした上で、前年度の指摘を改善すべく、反省点や振り返りの再確認として活かしていくようにしている。		
8 運営推進介護を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2か月に1回のペースで運営推進会議を設定。意見交換の場として活用し、出た意見に基づいたサービスを提供できるように心がけている。		
9 市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	市町村が行う研修会には出来る限り参加、わからない疑問点など市町村に確認するなどして連携を図り、サービス向上に努めている。		
10 権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	理解した上で支援している。旭川地区を支援する会の研修において、医師、看護師、ケアマネージャー、包括支援事業の保育士、ヘルパーなど他職種の権利擁護の支援によるグループワークを通し、介護高齢課の職員に現状を伺い、利用者の方に支援出来る様努めている。		
11 虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがない要注意を払い、防止に努めている。	現状の把握、虐待行為が行われていないかの確認。常日頃から、虐待防止は、各自の再確認として言い続けている。		
4. 理念を実践するための体制			
12 契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	利用者本人、家族と話す機会を作るように設定し、尋ねられた事、一般的に不安を感じるようなことは入念に説明、納得していただくようにしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	なるべく利用者とは多く接しながら、話しやすい環境づくりが出来る様配慮している。苦情に関わらず、意見等も、スタッフと意見交換の場を設け開示し、対応できるようにしている。		
14 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	毎月送る請求書と共に、作成している広報や、ちょっとした本人の状況がわかる手紙、コメントなどを添えて送付するようにしている(毎月ではない)。金銭面での信用も大切なため、お小遣い帳や、領収書の貼付したものなど、わかりやすく見やすい物を送付している。		
15 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	苦情申し立ての窓口設置。受けた相談内容については、迅速に対応できるように心がけている。		
16 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	スタッフと話す機会は設けている。結果、反映出来る事は取り入れ、現実問題難しいと思われることでも検討の一つとして考慮している。		
17 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	あらかじめ人員の必要などときには、配置人数を増やしたりしている。突発時のフォローも出来る様な体制にもしている。やむを得ない場合に関しても、入居者・家族の都合に応じて勤務変更も柔軟に行えるようにしている。		
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	職員の雇用時にも、その旨は十分説明した上採用することとしている。現実問題として、すぐ退職してしまうなどということもあるが、入居者のダメージとならないような配慮はつねに行うように努力している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>法人内での研修・勉強会はまめに行うようにしている。外部の研修にも出来る限り参加するように促し、参加者はレポートなどで職員同士向上していけるようにしている。</p>	
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>外部研修や、グループワークなどに参加し、他職種の起こっている現状などの情報交換により、サービスの向上に取り組んでいる。</p>	
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>時に話し合いの場を設けたり、希望休の調整に応じたりしながら、ストレスを軽減できるように努めている。</p>	
22	<p>向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	<p>個人の業績は評価するようにしている。結果を出せないとしても、いい意味での競争心、向上に向けて各自が動き出せるよう役割をもたせるなどして工夫している。</p>	
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>コミュニケーションをなるべく取れるような環境づくり、本人の訴えに傾聴。不安軽減出来る様配慮している。</p>	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>入居前より直接のご相談であれば家族と、仲介がある場合はケースワーカーと良く話せるよう密に連絡、情報交換など行っている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人・家族からの相談時には随時時間を十分にとり、介護保険等有効に利用出来るサービスの紹介を行い、不安解消していただけるよう努力している。		
26 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	入居前に施設内見学の時間を十分に取、場の雰囲気に慣れて頂く事から始め、状況によっては試験入居も行っている。本人や家族に安心、納得頂いた上でサービス提供を心がけています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	職員の意見を一方的に通すのではなく、本人の希望や家族の意向を取り入れ、話し合い、理解しあえるよう特に入浴や散歩の支援をしています。		
28 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	本人の状況をお知らせしながら、Faの協力も得ながらのケアになるよう心がけている。本人は当然ながら、家族との信頼関係も構築出来る様にしている。		
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	本人にとってFaが一番の支えであり、またその家族自体も高齢であることから、健康・生活状態も考慮し、職員で出来る事は支援し、ご本人と家族が笑顔で会えて楽しいひと時が過ごせるよう支援している。		
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	同じ病院で長期入院していた方が多く、定期受診時に、職員や、入院患者さん、通院の方とコミュニケーションをとったり、独居生活の支援をしてくれたヘルパーさんが会いに来てくれたりしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	食事に食堂へ誘い合ったり、病院受診時入居者同士が手をつなぎ、転ばないように配慮しあったり、座席を譲り合うなどの支えあう姿勢が自然と見られている。		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	サービス利用が終了しても、家族や利用者と必要に応じて連絡を取ったりしながら関係を続けている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々のコミュニケーションの中で、本人が希望する生活の環境を聞き、把握できるように心がけている。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居時に本人、家族と面談をし、状況によっては自宅に訪問するなどしながら、これまでの暮らしに限りなく近い環境を提供できるように努めている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	2~3ヶ月に一度、サマリーの作成、利用者に変化があれば看護・介護計画書の修正を行うと共に、本人とのコミュニケーションを図ることで暮らしの状況把握をしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	本人、職員、家族とそれぞれ意見交換出来る様な話し合う場を設け、意見やアイデアの交換が出来る様にした上で、適切なケアプランが作成されるようにしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	状態変化に応じて話し合い、都度詳細を話し合いながら全員が統一した対応や支援が出来る様に新しいプランを作成している。		
38 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに生かしている。	どの職員が見ても、本人の状態が把握できるような個別的な記録の様式を使用している。情報の共有によって得られた情報を反映しながら、よりよいケアの提供、プランの作成に役立っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	応じられる状況に関しては、出来る限り応じていけるような環境にするよう努め、難しい場合でも、なるべく近い状況に出来る様にしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	地域へのグループホームの浸透、理解もふまえ、警察・消防機関等の職員の方に運営推進会議の参加を促したり、協力を仰いでいる。		
41 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	ご本人の必要性に応じて、他のサービスも利用出来る様支援している。		
42 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	地域包括センターのケアマネージャーが研修会などを定期的に行い、権利擁護についてはお話ししていないも、情報交換をしたり、いつでも相談に応じて頂ける体制はとっている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	定期受診以外にも、本人の状態を日ごろチェックした記録などに基づき、気軽に報告し、本人の安定した生活を支援出来る様心がけている。		
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	一ヶ月に一回、専門医への受診と共に、日常的な本人の状態等報告をし、認知症状の悪化が無いかどうかを相談したり、症状の悪化が見られた時にはすぐに情報提供し、治療してもらえるよう支援している。		
45 看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	医療連携加算もっており、常勤で看護師も配置し、健康管理を行っている。		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	医療機関との連携は、入院問わず常時できており、いかなる状況にあっても迅速に対応できるようにしている。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	看取りの支援も行っている。表印、家族、グループホームそれぞれで情報の共有を密に行っている。		
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	本人にとって安楽で安心した環境で最期まで過ごしていただけるよう、見極めのラインも引いた上で、職員間での統一したケアの提供、それぞれが協力し合い支援出来る様にしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
49 住替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	サマリー他、面談も含め、十分な情報提供を行い、本人に環境の変化をあまりかんじさせることなく、ダメージも最小限に抑えられるような配慮をしている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
50 プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	個人の尊厳を大切にしながら、声かけや対応には十分配慮している。		
51 利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	日常生活において自己決定の出来る能力に合わせ、二種類からの選択や、「はい」「いいえ」の意思の傾聴を基本とし、希望の表出が出来る様なゆっくりとした時間や、静かな環境で1人1人向き合える支援をしている。		
52 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	本人の希望に沿った、個人の一日の過ごし方が再現できるような出来る限りの支援をしている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、利用・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	その日の洋服をご自身で選択出来ない利用者様には、職員が違う色やデザインの服を2~3種類提示し着たい服を決めて頂く。月1回床屋さんに来てもらい散髪をしています。希望のある方には髪染めを購入し支援している。		
54 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしているか。	一人ひとり人の好みなど職員が情報を共有し、苦手なおかずに関しては別な物で対応している。準備、片付けなども一緒に出来る方にお手伝いしていただいている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。</p>	<p>食べたいおやつを職員と一緒に買いに行き、ご自分で選んでいただきプリン、ヨーグルト、果物、パンなどを食べられている。職員と一緒に手作りのおやつを作り提供する事もある。お酒を希望される方はいないが、食後にタバコを吸われる方がいる。</p>		
56	<p>気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。</p>	<p>排泄チェック表に記録し個々の排泄パターンを把握しその日の体調など考慮し声掛けや誘導をしている。食欲不振や便秘による苦痛の無いよう支援している。</p>		
57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。</p>	<p>基本的に月曜日、木曜日を入浴日とし、一人ひとりの好みでゆったりとした大風呂かプライバシーを大事にするユニット風呂が選ばれ安全に事故のない様に支援している。入浴日には受診などなるべく入れず1日ゆっくりと時間に余裕を持って入っていただいている。</p>		
58	<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。</p>	<p>日中の休息も自室のベッドや馴染みの椅子で休まれたり、ホールのTVを見ながらソファで休まれたりと、個々の取りやすい休息方法を行っている。夜間もベッドや、敷き布団の方、電気をつけて眠られる方もいたり、ラジオを聴きながら休まれる方などそれぞれの休み方を尊重している。</p>		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。</p>	<p>もともと過ごしていた環境に近い楽しみややり合いを持ってもらえるよう、日々の生活の中に取り入れていくようにしている。一般家事から、レクのような遊び、カラオケ、畑仕事や散歩など、ストレスをためないような支援を行っている。</p>		
60	<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。</p>	<p>自己管理能力のある方は小額ではあるが持たれている。大半の方はこちらで管理させていただくよう本人、家族に説明し、金銭トラブルの防止に努めている。趣味や欲しい物がある時は、残高を考えながらスタッフや本人、家族などと購入物の予算などを相談して買うなどしている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	本人からの希望に沿って、日向ぼっこや散歩などの支援は随時行っている。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが言ってみない普段はいけないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	季節行事の企画時に、家族にも参加の呼びかけを行い共に参加できるような機会を設けている。		
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	基本的に自由であるが、事情により、家族からの制限がある場合は考慮して連絡するようにしている。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	玄関先には椅子、ホールにはソファを設置し、いつでもくつろげるような空間を提供している。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	全職員に周知、徹底し行えている。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	玄関の施錠は、防犯上20時～翌7時まで。必要以外は施錠はしないことにしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	常時見守り、必要時声掛け行い、安全確認を行っている。		
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	基本的に刃物などの危険物は持ち込み禁止にしているが、個々の状態に応じて職員間での確認と情報交換にて問題が無ければ対応している。		
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	あらかじめ危険予測は個人の状態に応じて行っており、それに伴う状態の勉強会、資料などを用いて事故防止に努めるよう取り組んでいる。		
70 急変や自己発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	緊急時対応マニュアルを作成し、全職員が迅速な対応をとれるよう、事故が発生した場合には、再発防止のため会議を設け対策を検討している。		
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	定期的に避難訓練を行っている。		
72 リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	個々の状態は常時観察しており、本人の状況に変化があり、伴うリスクが存在した場合には早急に家族に連絡をしその説明を行って密に話し合っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。</p>		
74	<p>服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>		
75	<p>便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。</p>		
76	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れやおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。</p>		
77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>		
78	<p>感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79 食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	消毒液の使用、スタッフの手洗い励行、厨房の清掃等、衛生の確保に努めている。職員にも周知徹底している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり			
80 安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	安心して出入りできるような環境下であり、良い雰囲気作りに努めている。		
81 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用にとって不快な音や光がないように配慮し、生活観や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	一般の家庭に近い環境づくりをしている。季節感を出せるような装飾をし、入居者と共に装飾品を作成し、飾るなど、よりいっそう味わって頂けるよう工夫している。		
82 共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	居室、ホールの使用により、思い思いの状況下で生活出来るよう支援している。		
83 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	基本的に本人が過ごしやすい環境になる様、入居前から自室環境の様子を伺ったりし、使い慣れた物を持参してもらったりしている。		
84 換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	換気・冷暖房の調節は職員が行っている。窓の設置も多くしているため換気は十分に行えるようになっていく。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>		
86	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>		
87	<p>建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>		

サービスの実績に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<p>ほぼ全ての利用者 <u>利用者の2/3くらい</u> 利用者の1/3くらい ほとんど掴んでいない</p>
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<p><u>毎日ある</u> 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない</p>
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<p>ほぼ全ての利用者 <u>利用者の2/3くらい</u> 利用者の1/3くらい ほとんどいない</p>
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている	<p>ほぼ全ての利用者 <u>利用者の2/3くらい</u> 利用者の1/3くらい ほとんどいない</p>
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<p>ほぼ全ての利用者 <u>利用者の2/3くらい</u> <u>利用者の1/3くらい</u> ほとんどいない</p>
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<p><u>ほぼ全ての利用者</u> 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんどいない</p>
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<p>ほぼ全ての利用者 <u>利用者の2/3くらい</u> 利用者の1/3くらい ほとんどいない</p>
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<p><u>ほぼ全ての家族</u> 家族の2/3くらい 家族の1/3くらい ほとんどできていない</p>
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<p>ほぼ毎日のように <u>数日に1回程度</u> <u>たまに</u> ほとんどない</p>

サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。</p> <p>大いに増えている <u>少しずつ増えている</u> あまり増えていない 全くいない</p>
98	<p>職員は、生き生きと働けている</p> <p>ほぼ全ての職員が <u>職員の2/3くらいが</u> 職員の1/3くらいが ほとんどいない</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>ほぼ全ての利用者が <u>利用者の2/3くらいが</u> <u>利用者の1/3くらいが</u> ほとんどいない</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>ほぼ全ての家族等が <u>家族等の2/3くらいが</u> 家族等の1/3くらいが ほとんどいない</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

周辺に介護施設が点在する福祉村に位置し、閑静で自然豊かな場所に広い敷地を有効活用し、ゆったりとした時間が流れるような空間を提供していけるよう心がけている。共有スペースは吹き抜けの構造とし、陽光が自然と差し込む開放感のある場所となっており、明るい環境の中で生活出来るようになっている。大型スクリーンとプロジェクターも設置しているため、映画やビデオ鑑賞が迫力ある環境で鑑賞できる。裏庭も作り、夏季は家庭菜園も入居者の方と行き、収穫した作物をその日の食事に使用したりして二重の楽しさを味わっていただくようにしています。